

コロナ後の情勢をにらむ！ 地域性を踏まえた 観光地の宿泊業支援



地方でよくある課題と
解決支援のポイント

コロナ以降求められる観光業支援とは

定量面にのみとらわれず 地域固有の資源や特性を 踏まえた発想を持とう

下野 錦 花笑み工房
地方創生コンサルタント

図表1 日本人国内旅行の1人1回当たり旅行支出 単位：円/人

国内旅行全体	うち宿泊旅行			うち日帰り旅行					
	旅行単価	2019年比	前年比	旅行単価	2019年比	前年比	旅行単価	2019年比	前年比
2019年	37,355		+2.4%	55,054		+1.4%	17,334		+0.3%
2020年	33,993	-9.0%	-9.0%	48,365	-12.2%	-12.2%	16,589	-4.3%	-4.3%
2021年	34,240	-8.3%	+0.7%	49,323	-10.4%	+2.0%	17,328	-0.0%	+4.5%
2022年	41,146	+10.1%	+20.2%	59,174	+7.5%	+20.0%	18,540	+7.0%	+7.0%

(出所) 観光庁「旅行・観光消費動向調査2022年年間値(確報)」より一部抜粋

観 光業の中でも、特に宿泊業は新型コロナウイルスにより大打撃を受けたが、2023年5月の新型コロナウイルスの5類への引下げに加え、行動制限の緩和や全国旅行支援等の観光支援施策もあり、国内旅行・訪日外国人旅行はにぎわいを取り戻し始めている。

観光需要は回復も
倒産懸念も高まる

観光庁の調査「旅行・観光消費動向調査2022年年間値(確報)」によると、2022年の日本人国内旅行の1人1回当たり旅行支出(旅行単価)が宿泊旅行5万9174円(前年比20.0%増)、日帰り旅行1万8540円(前年比7.0%増)となっており、宿泊業は回復基調にあるようだ(図表1)。

一方で足元を見てみると、2024年1月15日発表のTDDB全国企業倒産集計2023年報によれば、2023年の倒産件数が8497件(前年比33.3%増)で、うち旅館その他宿泊所は76件(前年比2.6%減)、負債額は242億7600万円(前年比2.3%増)だった。

訪日外国人旅行(インバウンド)についても、2024年1月の観光庁長官記者会見において2023年の訪日外国人旅行者数、訪日外国人旅行消費額ともに前年を上回り、インバウンド市場特有の国際情勢や為替といった様々な不安要素があるものの、2022年3月に閣議決定した観光立国推進基本計画に掲げる訪日外国人旅行消費額5兆円の目標を早期に達成したと発表されたばかりである(図表2)。

今後、人手不足や物価高、ゼロゼロ融資の返済負担等に耐えかねて事業継続を諦める経営者が増加する可能性があり、不良債権の増加が予想されている。

筆者はこれまでツアーコンダクター兼地方創生コンサルタントとして、海外・国内を飛び回っていたが、2020年2月のコロナ以降、パタリと仕事がなくなった経験がある。